

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

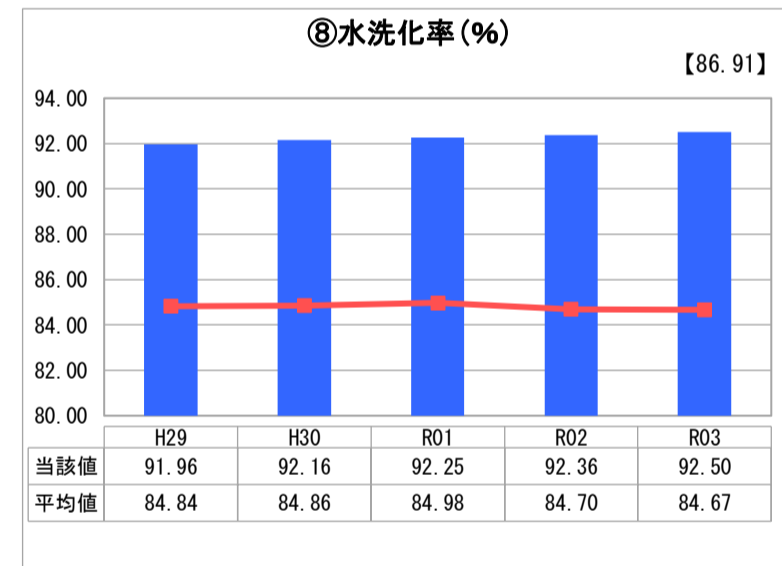
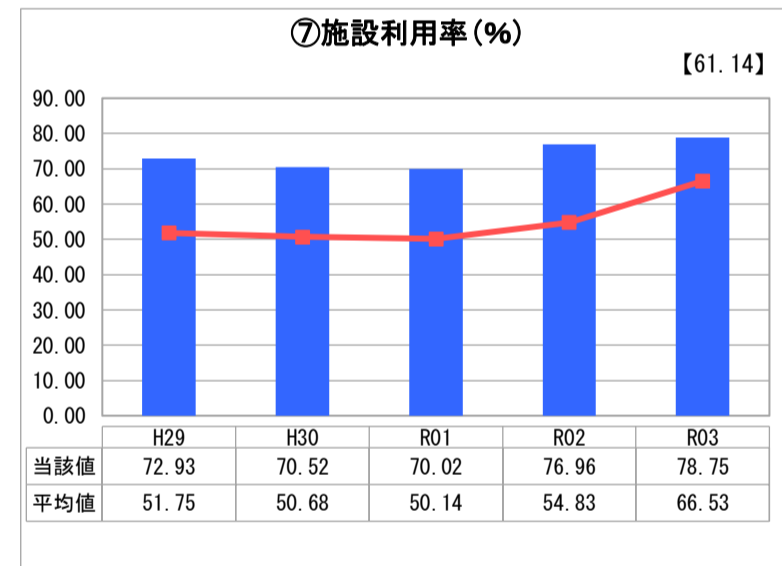
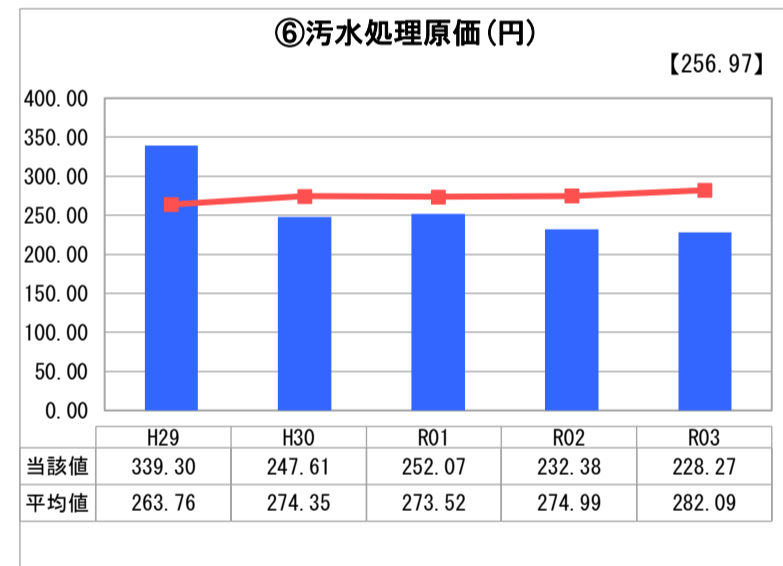
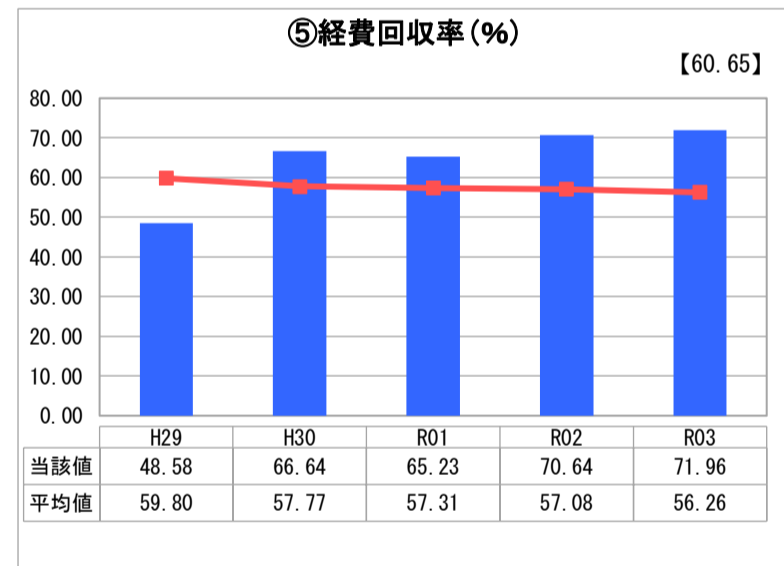
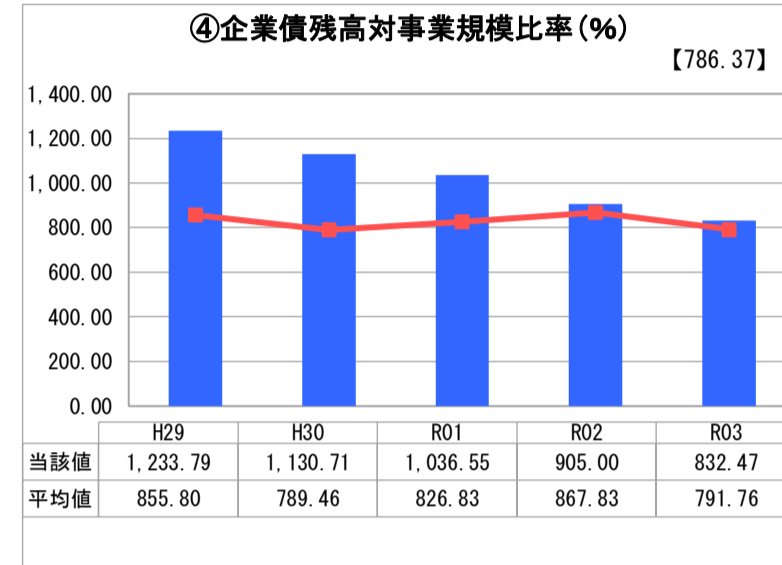
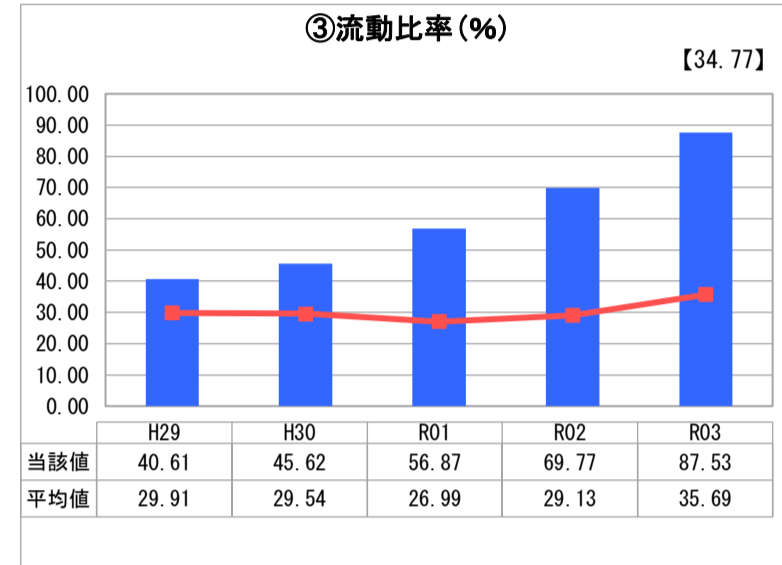
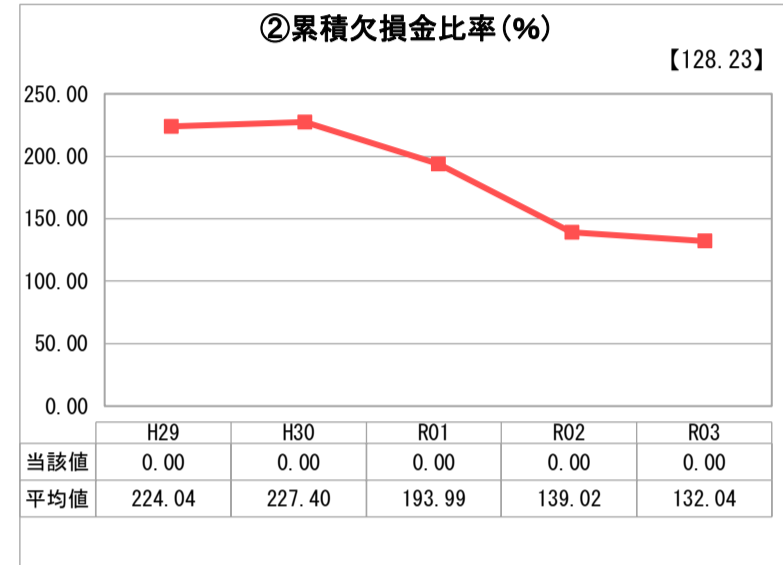
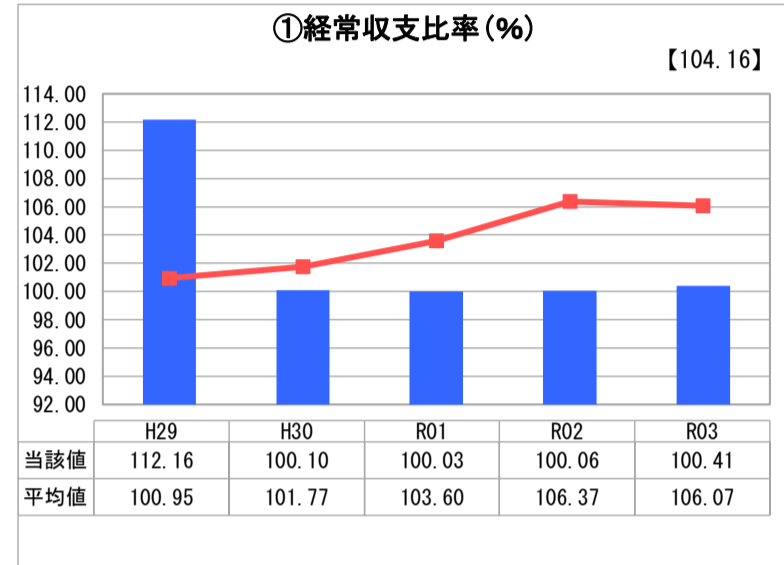
福井県 鯖江市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	71.69	17.89	75.51	3,256

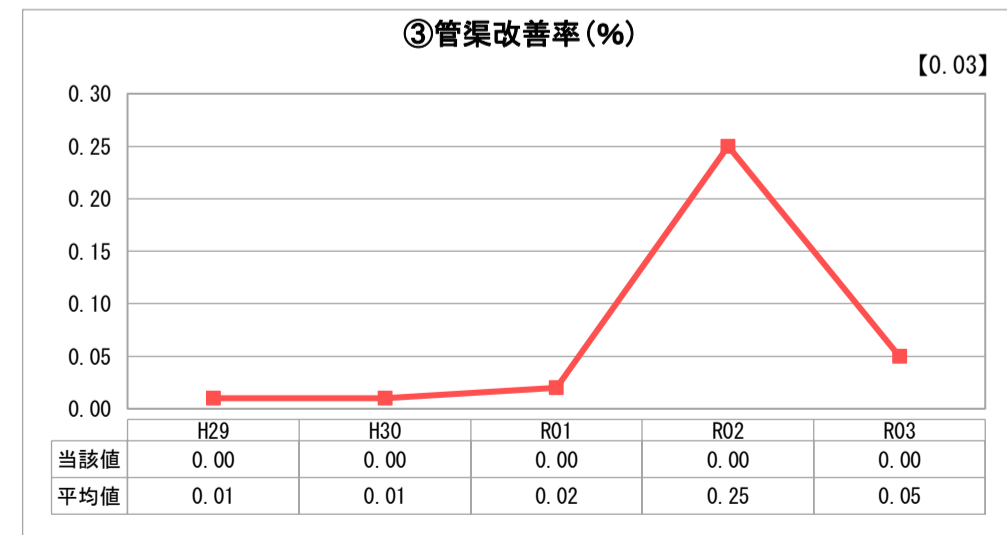
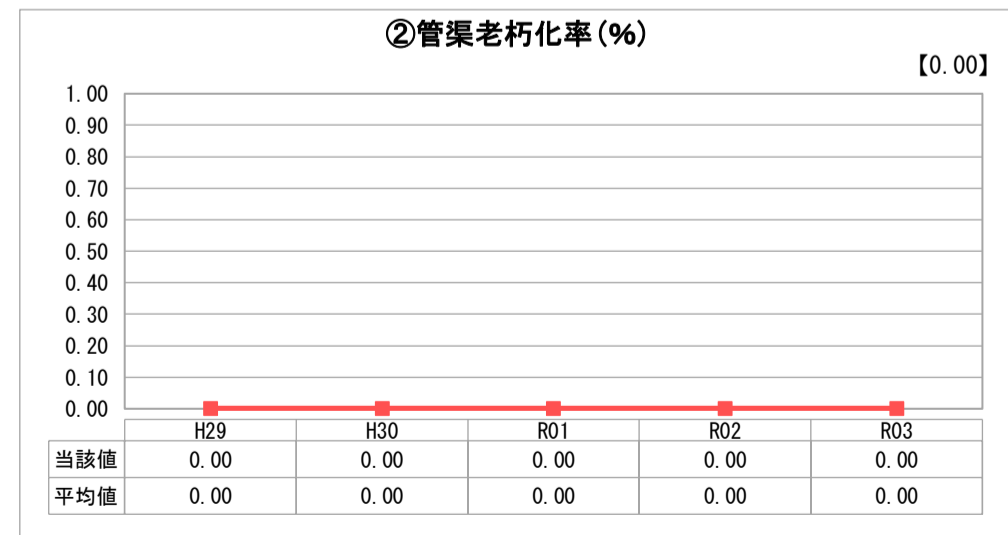
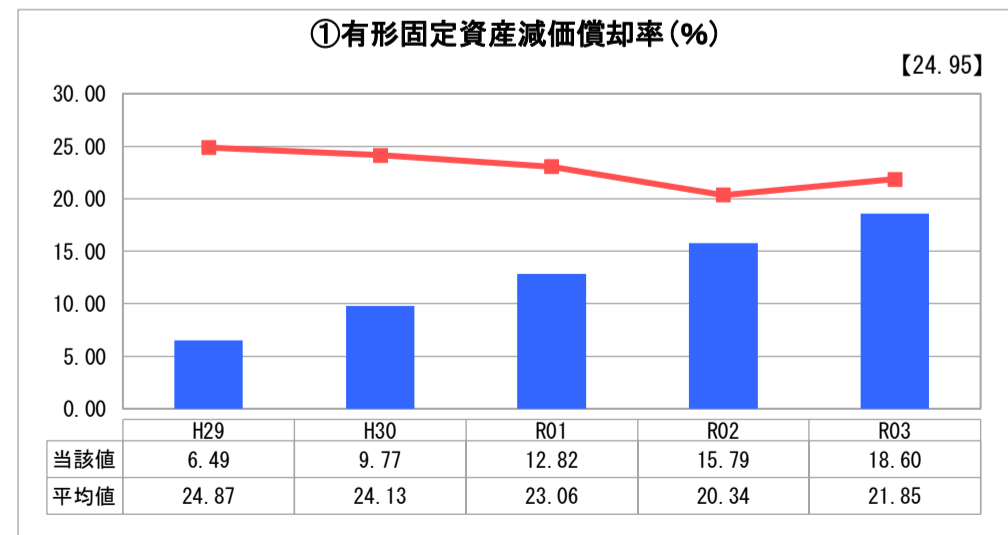
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
69,400	84.59	820.43
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
12,393	7.08	1,750.42

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

⑧の水洗化率は高水準であるが、今後は人口減少等に伴い有収水量と使用料収入の減少が見込まれ、①経常収支比率においても一般会計繰入金により辛うじて100%を確保している状況。  
 ④企業債残高は、令和2年度に大型の償還が完了したことや、計画区域全域の整備は完了していることから、今後改善が見込まれる。  
 ⑤経費回収率、⑥汚水処理原価については、職員数の削減や施設の維持管理に包括的民間委託制度を導入するなど、支出減への経営努力を重ねているところであるが、削減は限界となってきた。  
 ⑦の施設利用率については、⑧の水洗化率の向上と合わせ、順調に接続者が増加していることに起因するものとする。

### 2. 老朽化の状況について

処理場は6カ所あり、平成23～24年度に立待地区、平成26～27年度に豊地区処理場の機能強化事業を行った。またすべての処理場について、平成28～29年度に機能診断調査を行い、今後の整備計画についての基礎調査を行った。今後順次改築、更新事業費の平準化を図っていくところである。

### 全体総括

上記1でも述べたとおりだが、下水道事業の根幹である使用料収入については、高齢者世帯や単身者世帯の増加、節水器具の普及等により、有収水量の増加は見込めない。水洗化率は順調に伸びてはいるが、これ以上の水洗化促進は頭打ちが予想され、使用料増収も見込み難く、収入減は必至である。  
 これまで様々な経営努力は行ってきており、新しい取組みを模索している状態であるが、先進自治体の状況等を参考に等して、経営健全化に向けた取組を行っていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。